

サッカーW杯におけるフリーキックの特徴

藤本 昂洋 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 山田 庸

キーワード：セットプレー，ポゼッション率，キッカー

1. 緒言

近年のサッカーにおいても，フリーキック (FK) やコーナーキック (CK) といったセットプレーは，相手の妨害なしにゴールに迫ることが出来，特に近年のサッカーで得点する手段として貴重である．本研究では，サッカーW杯 2014 ブラジル大会におけるセットプレーから得点に繋がった全ゴールを対象とし，セットプレーの有効性を明らかにすることを目的とする

2. 研究方法

W杯 2014 ブラジル大会のセットプレーから得点した計 39 ゴールを集計した．各ゴールについて，その特徴を示す以下の項目を集計し分析した．①ゴール数，②ゴールパターン，③セットプレーと勝敗の関係，④部位と勝敗の関係，⑤セットプレーのゴールのあった試合のポゼッション率と勝敗の関係

3. 結果と考察

セットプレーからの得点の全 39 ゴール中 30 ゴールが勝利につながるゴールだった．他，引き分けが 2 ゴール，負けが 7 ゴールだった．CK からのゴールがある試合に負け試合がなかった．勝ち試合では 16 ゴールのヘディングのゴールが一番多く見られた．その次にボレーシュートの 4 ゴール，直接ゴールの 2 ゴールとなった (図 2)．また，セットプレーを決めた勝ちチームのポゼッション率は平均 49%であった (図 3)．優勝国ドイツを含め，ギリギリの試合でセットプレーからの得点で勝利に結び付けていた

4. まとめ

①セットプレーのゴールは勝敗に影響があ

る．②セットプレーのゴールでは，ヘディングが多い．③ポゼッション率が拮抗した試合において，セットプレーのゴールは勝敗に影響がある．

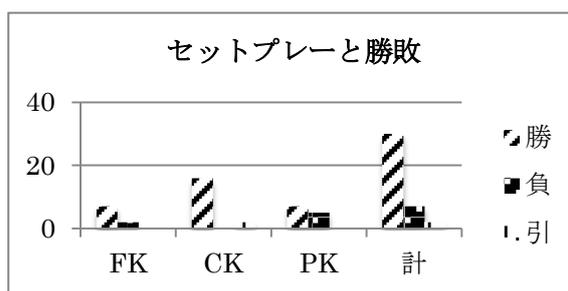


図1 セットプレーの種類と勝敗

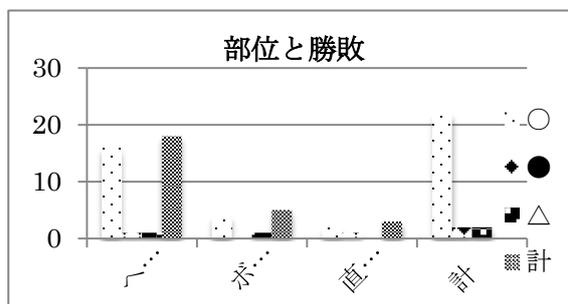


図2 シュート部位と勝敗

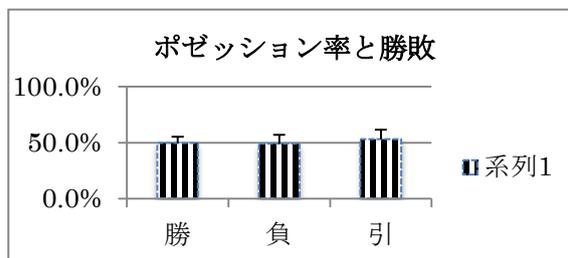


図3 勝敗別のポゼッション率

引用・参考文献

ヒューズ (1985) サッカーの戦術と技術. 日刊スポーツ出版社：東京.